

令和6年度

第1回徳島市国民健康保険運営協議会会議録

令和7年2月7日

ホテル千秋閣7階 鳳の間

徳島市国民健康保険運営協議会会議録

1 と き 令和7年2月7日 金曜日 午後1時00分から午後1時45分まで

2 と ころ ホテル千秋閣（自治会館）7階 鳳の間

3 出席委員 被保険者を代表する委員

杉本 好史 （徳島市民生・児童委員協議会）

平田 紀子 （徳島市シニアクラブ連合会 女性部副部長）

林 孝行 （J A徳島市青壮年部 副部長）

豊田 三代子 （J A徳島市女性部 部長）

保険医及び保険薬剤師を代表する委員

宇都宮 正登 （徳島市医師会 会長）

坂東 智子 （徳島市医師会 副会長）

鎌田 光二 （徳島市医師会 常任理事）

坂東 光美 （徳島市歯科医師会 副会長）

加地 司 （徳島市薬剤師会 会長）

公益を代表する委員

本田 泰広 （徳島市議会議員）

田岡 誠司 （健康保険組合連合会徳島連合会 常任理事）

田中 浩三 （弁護士）

被用者保険を代表する委員

中川 智 （全国健康保険協会徳島支部 徳島支部長）

宮本 勝司 （徳島県市町村職員共済組合 事務局長）

欠席委員 被保険者を代表する委員

柏原 他加子 （徳島商工会議所女性会 会長）

公益を代表する委員

大西 実希 （徳島市議会議員）

池田 篤史 （四国放送 取締役総務局長）

4 事務局	健康福祉部長	竹原 義典
	保険年金課課長	伊丹 まゆみ
	課長補佐	石崎 信一
	収納係長	中 宏
	係長	今治 貴史
	国保第一係長	数戸 宏之
	庶務係長	平岡 正成
	国保第一係主事	米澤 冬斗
	健康長寿課課長補佐	阿部 奈美

- 5 議 題 (1) 徳島市国民健康保険条例改正（案）について
(2) 令和7年度国民健康保険事業特別会計事業計画（案）について

6 審議概要
(市長あいさつ、委員紹介、事務局紹介)

事務局 (14名の委員出席、3名の委員欠席、事務局9名出席)
本協議会は、徳島市国民健康保険条例施行規則第6条の規定により、「委員の2分の1以上、かつ、各代表につき1人以上の出席があること」を開催要件としておりますが、本日の会議はこの要件を満たしていることをご報告いたします。

会長 (市長より諮問書が提出され、会長が受理)

(会長により、杉本委員、宮本委員を会議録署名委員に指名)

それでは、審議に入ります。

今回の諮問事項は、1 徳島市国民健康保険条例改正（案）、2 令和7年度国民健康保険事業特別会計事業計画（案）であります。お手元の資料に沿って、事務局から諮問事項に関連して、資料の「1 徳島市の国民健康保険事業の状況」について説明をお願いします。

事務局 (運営協議会資料より、「1 徳島市の国民健康保険事業の状況」を説明)

会長 事務局から徳島市の国民健康保険事業の状況について説明がありましたが、ご質問・ご意見等ございませんか。

(質問なし)

会長 つづきまして、諮問事項の1に関連して、資料の「2 徳島市国民健康保険条例改正について」説明をお願いします

事務局 (運営協議会資料より、「2 徳島市国民健康保険条例改正案について」を説明)

会長 事務局より、「2 徳島市国民健康保険条例改正案」について説明がありましたが、ご意見やご質問はございませんか。

ないようですので、諮問事項の「1 徳島市国民健康保険条例改正案」について採決いたします。

原案を可とすることに賛成の方は挙手をお願いします

(坂東(光)委員を除く全員が挙手)

会長

ありがとうございます。

挙手多数でございますので、「1 徳島市国民健康保険条例改正案」は、原案を可とすることとします。

それでは続きまして、諮問事項2の令和7年度国民健康保険事業特別会計事業計画案に関連して、資料の3の令和7年度国民健康保険料の算定方針について、それから、9ページの5、「令和7年度徳島市国民健康保険事業特別会計予算(案)について」までのご説明をお願いします。

事務局

(運営協議会資料より、「3 令和7年度国民健康保険料の算定方針について」から「5 令和7年度徳島市国民健康保険事業特別会計予算(案)について」を説明)

会長

事務局より、諮問事項2の令和7年度国民健康保険事業特別会計事業計画案についての説明がありましたが、ご意見やご質問はございませんか。

委員

保険料について説明があったが、将来的に保険料が県内統一されるということで、令和7年度は増額となっているが、いきなり上げるわけではなく、緩やかに上げるということである。

毎年のように環境が変わる中で、エンドレスにあげていくのはよろしくない。

その中で、市としてなにか政策等としてやっていることはあるか。

事務局

65歳以上の加入率が高いので、今後も医療費についてもますます必要となってくるため、その医療費をどのように抑えていくか、規制していくかが重要であると考えております。

それには特定健康診査について、40歳から、若年層の方から受診してもらい、健康で長生きをしていただく健康寿命の延伸や、ジェネリックがもっと普及するような対策を考え、県とも協力して一緒に進めていければと考えております。

委員

資料1ページの(3)にありました受診率の記載がございますが、どこをゴールにしているのか、市が取り組む政策の中で、何をもってこれを達成させたとか、そういう判断基準を持たれて、どういった取り扱いをしているのか。

事務局

特定健康診査受診率については、市の総合計画で目標を定めておりまして、今のところ60%を目指しているところでございますが、令和5年度

では36.2%とかなり目標値と開きがありますが、今後の目標達成に向けてどういった対策をするかを考えていく必要があります。

令和6年度においても医師会にご協力いただき、チラシの配布とかを実施していただきましたので、今後も関係機関と連携して、ご協力をいただきながら、対策を考えていこうと思っております。

委員 引き続き、保健事業に注力していただいて、全体の保険料を抑制できるように、取り組んでいってほしいと思います。

委員 さきほどの保健事業の流れの中で、ひとつ意見というか要望をさせてもらいます。

私ども協会けんぽも保険料率というのは非常に高くなっておりまして、来年度においては、10.47%で全国第2位の料率となっております。

ですので、徳島市においても一人当たりの保険料率が上がってきている中で、同じような立場であると認識しております。

その中で、健診受診率とか保健指導を粘り強くやっていくということしかできない状態で、加入者の高齢化が進んでおり、それが終わったあとに、国保さんをお願いをするという形になりますので、保健事業を手前どもがやっていくうえで、できる限り協力をして、保健事業をやりたいと考えております。

そういった中で、最大の被保険者数である徳島市さんときっちりタイアップしていくことが、徳島県全体の底上げになっていくと考えています。

現時点で、当協会と健康づくりの協定を結んでいる公共団体は、鳴門市、小松島市、美馬市、阿波市、石井町とございます。

大きなところでいうと徳島市さんだけとは協定を結んでいないということで、手前どもとしましても保険料をいかに抑制していくか、そして抑制したものを高度医療に使ってもらえるかというのを考えておりますので、抑制するためには、上手に医療を利用いただき、たくさん薬をもらうとか、たくさんのお院に通うとか、始めから大病院に行くとか、時間外の受診を減らしていくとか、そういうところをいかに抑えるかというのを徳島市さんと一緒にやっていき、ひとつの事業に対して一緒にできることがあればと考えております。

今後、手前どもの25万人の加入者と合わせて、できるだけ一緒にやっていければと考えており、費用の抑制にもなっていくと考えております。

これは1年や2年でやっていけることではございませんので、できるだけ早い時期にスタートをかけて、結果を出していきたいと考えておりますので、ぜひ、ご協力をお願いできればと思います。

会長 ありがとうございます。

そういう連携、協力のお話がありましたが、事務局からなにかありますか。

事務局

ご意見ありがとうございます。

私どもの方も協会けんぽさんとタッグを組んで、これからの医療費の適正化・抑制等に向けていければと考えていますので、ぜひご協議させてもらえればと考えております。

どうぞよろしく願いいたします。

会長

ありがとうございました。

色々なご質問やご要望が出ておりますが、ほかにご質問、ご意見等がございますか。

それでは意見も出尽くしたようでございますので、諮問事項2の令和6年度国民健康保険事業特別会計事業計画（案）についての採決を行います。

諮問事項2、令和6年度国民健康保険事業特別会計事業計画（案）について、原案を可とすることに賛成の方は挙手をお願いいたします。

（全員挙手）

全員挙手ということで、諮問事項2 令和6年度国民健康保険事業特別会計事業計画（案）について、原案を可とすることといたします。

これで、本日予定の審議事項は、終結いたしました。

なお、この答申につきましては、私の方で、市長に速やかに行いたいと思います。

では、これを持ちまして、本日の国民健康保険運営協議会を終了いたします。

貴重なご意見、円滑な慎重審議にご協力いただきまして、ありがとうございました。

以上

散 会

上記のとおり、徳島市国民健康保険運営協議会の顛末を記録します。

会 長 田 中 浩 三



会議録署名者 杉 本 好 史



会議録署名者 宮 本 勝 司



